

株式会社長大 社会創生事業本部まちづくり事業部PPP推進部

卒論テーマ 百貨店の立地状況と撤退後の跡地活用実態に関する研究

—立地適正化計画と跡地用途の関連性に着目して— (山崎研究室)

修論テーマ 百貨店撤退後の建物・跡地利活用に関する研究
—中心市街地活性化基本計画認定後の事例を対象として— (山崎研究室)

出身高校
日本大学
三島高等学校

まち科8期生に
聞きました。

1

私は、国や地方公共団体が推進する政策やプロジェクトに対して、PPP/PFIを専門領域とした行政支援を行っています。PPP/PFIは、公共施設や公共サービスの整備・運営に民間企業のノウハウや資金を活用し、より効率的で質の高い行政サービスの提供を目指す手法です。「まちづくり」の分野では、地域の将来像や課題を整理する上流段階から携わることが多く、事業構想の立案、官民連携手法の検討、事業者選定支援などを通じて、持続可能な地域づくりと公共サービスの向上に貢献しています。



社内協議の様子

2

公共施設には公園や庁舎をはじめ多様な分野があり、それぞれに関連する法制度や事業手法も異なるため、建設コンサルタントとして業務に携わる中で、日々の自己研鑽の重要性を強く実感しています。

社会人3年目となり、業務の主担当を任される機会も増えてきたことから、これまで経験の少ない分野や苦手意識のある業務にも積極的に挑戦し、知識と経験の幅を広げていきたいと考えています。また、業務を通じてマネジメント力や調整力を磨き、行政や民間企業から「PPP/PFI分野のことなら西山に相談したい、任せたい」と信頼される技術者になることを目標としています。

3

学生時代は、学業・プライベートを問わず「さまざまな経験を積むこと」を大切にしていました。学業では、大学院生として研究活動に取り組むだけでなく、研究室運営にも積極的に携わり、院生と学部生が密にコミュニケーションを取りながら御茶ノ水駅周辺のまち模型を作成するなど、チームで一つの成果をつくり上げる経験をしました。プライベートでは、大学の友人と関東近郊をドライブしながらさまざまなまちを訪れたり、ダンスサークルに所属して学科の垣根を越えた仲間との交流を深めたりしました。こうした多様な経験を通じて培ったコミュニケーション力や幅広い視野は、現在の業務においても大いに活かされていると実感しています。

4

後輩の皆さんには、「まちづくりに携わりたい」という漠然としたイメージだけで就職活動を進めるのではなく、自分がどのフェーズに関わりたいのかをできるだけ具体化してほしいと思います。まちづくりには、計画・設計・建設・運営などさまざまな段階があり、それぞれ求められる役割や働き方が異なります。そのため、自分がやりたいことと業界・企業の特徴をしっかりと結び付けて考えることが重要です。

また、まちづくり工学科には多様な分野で活躍するOB・OGがいるという大きな強みがあります。先生やOB・OGに積極的に話を聞き、自ら行動することで視野が広がり、自分の将来像も明確になります。納得できる答えが見つかるまで自問自答を繰り返し、自分なりの軸を持って就職活動に取り組むことが、充実した社会人生活につながると思います。

研究室一丸となって
取り組んだイベント運営

1 どんなお仕事をしていますか？

2 お仕事での目標はなんですか？

3 学生時代に打ち込んだことは？

4 後輩に就活へのアドバイスを！